

こんな見え方は要注意！ 視野障害が起きている時の見え方のイメージ

白内障



正常時

白内障の見え方



- ・視界がかすむ、白っぽい
- ・ものが二重に見える

緑内障



正常時

緑内障の見え方



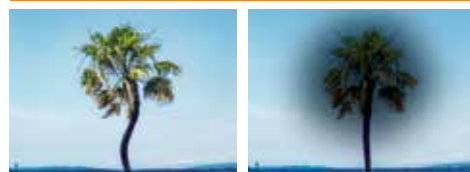
- ・視野が欠ける
- ・視野が狭くなる

加齢黄斑変性



正常時

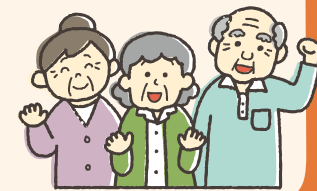
加齢黄斑変性の見え方



- ・ものが歪んで見える
- ・視界の中心が暗くなる

フォーラム Forum Senior Life News Letter

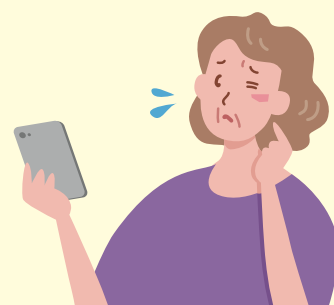
シニアライフ通信



特集

目の不調、放置すると失明のリスクも!? シニア世代に多い目の病気

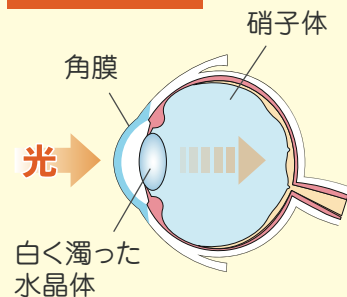
目がかすむ、物がぼやけて見えにくい……老眼のせいだと思っていたその症状、実は目の病気を疑うサインかもしれません。本稿では、加齢に伴って発症しやすい目の病気の代表格3つをご紹介します。



◎白内障

目の中には、レンズの役割を担う「水晶体」という器官があります。白内障とは、この水晶体が白く濁ること、外から入った光が眼底まで届かなくなり、視力が低下してしまう病気です。個人差はあれど、誰しも年を重ねるにつれて水晶体は濁っていきます。そのため、年齢が

白内障の眼球



上がるほど発症率も高くなります。加齢以外にも、糖尿病やアトピー性皮膚炎、ステロイド薬などが原因となることもあります。

〈主な症状〉

- ・視界がかすむ、白っぽい
- ・視力が低下する
- ・まぶしさを感ずる
- ・ものが二重に見える

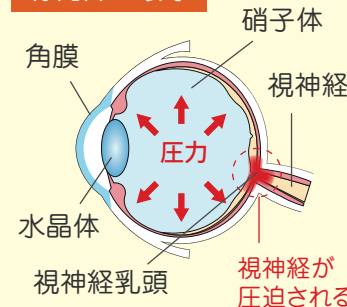
〈治療法〉

日常生活に支障がない段階では、進行を遅らせることを目的に、点眼薬などの薬物治療が行われます。日常生活に支障をきたすほど進行した場合は、手術により濁った水晶体を取り除き、代わりに眼内レンズと呼ばれる人工のレンズを入れます。

◎緑内障

目から入ってきた情報を脳に伝達する視神経に、何らかの原因で障害が起こり、視野が狭くなる病気です。眼圧(眼の硬さ)が上昇し、視神経が圧迫されることが原因の一つと考えられています。日本における視覚障害の中で最も多い原因とされており、放置すると失明の恐れもあり

緑内障の眼球



ります。

緑内障は多くの場合、緩やかに進行します。また、両方の目が同時に進行することは稀で、片方の視野が欠けたとしても、もう片方の目が見えない部分を補います。そのため初期のうちには自覚しづらく、気づいた時には重症化していることも少なくありません。

〈主な症状〉

- ・見えない部分が出てくる
- ・視野が狭くなる
- ※急性の緑内障の場合、目の痛みや頭痛、吐き気などもよおすことがあります。

〈治療法〉

一度傷ついた視神経を元に戻すことはできません。したがっ

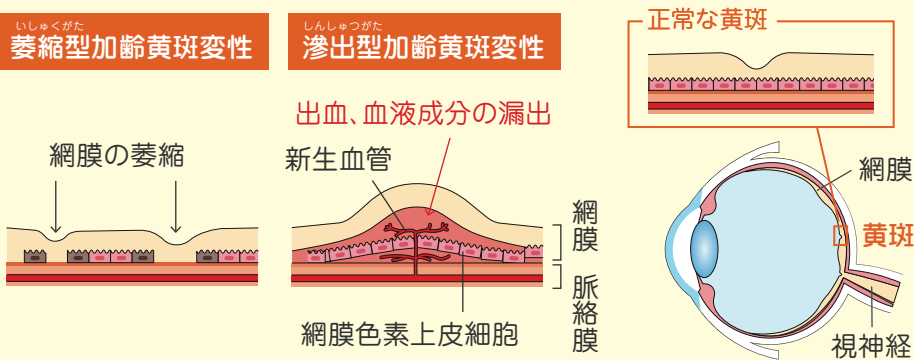
て、できるだけ早期に緑内障を発見して適切に治療し、病気の進行を食い止めることが目標となります。治療法としては、薬物療法やレーザー治療、手術などにより眼圧を下げるのが基本となります。

◎加齢黄斑変性

目の中で、色や光を感じる組織を「網膜」といいます。この網膜の中心部にある「黄斑」は、細かいものや色を識別する上で重要なはたらきをしています。そんな黄斑が加齢などによりダメージを受け、視力の低下を引き起こす病気が「加齢黄斑変性」です。

欧米では、成人の失明原因のワースト1位。日本でも、高齢化や生活の欧米化によって増加傾向にあります。加齢の他、喫煙や肥満、高血圧なども、発症リスクを高める要因となると考えられています。

加齢黄斑変性には、「萎縮型」と「滲出型」の2つの種類があります。「萎縮型」では、黄斑部の組織がゆっくりと硬く萎縮し、緩やかに視力が低下します。一方の「滲出型」は、網膜下に異常



な血管(新生血管)ができます。この血管は通常の血管よりもろいため、破れて出血したり、血液中の成分が漏れ出たりします。その結果、黄斑部の視細胞がダメージを受け、視覚障害を起します。進行が速く、急速に著しい視力低下を起こす可能性があります。日本人に多いのは、この滲出型です。

- #### 〈主な症状〉
- ・ものが歪んで見える
 - ・視野の中心が暗くなる
 - ・視野の中心が欠ける
 - ・視力が低下する
 - ・色の識別が困難になる

〈治療法〉

萎縮型は、現在のところ有効な治療法がありません。ただ、滲出型に移行する恐れがあるため、定期的な検診が必要です。滲出型の場合は、新生血管の成長を促す「VEGF」という物質のはたらきを阻害する薬を、目に注射する薬物療法があります。その他、強いレーザーを照射して新生血管を焼く「レーザー光凝固」、光に反応する薬剤を点滴した後、弱いレーザーで新生血管をピンポイントに破壊する「光線力学的療法」という治療法もあります。

目の病気は、症状がかなり進行するまで気づきにくいことが多いです。早期発見・早期治療のためには、定期的に眼科の検診を受けることが欠かせません。放置しておくとうつらなくなる場合もあるので、もし見え方に異変を感じたら、早めに眼科医を受診しましょう。